

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1, 傾聴～足を止めて訴えに耳を傾ける。2、受容～訴えやお話をよく聞き受け止める。3、支持～拒否や否定をせずそれを支える。	2, 3 と同じ
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常生活においてスタッフの支援により共同生活が営まれ落ち着いた家庭的な雰囲気の中で出来る事の役割を持って生活が送られるよう支援している	○ 行動障害、問題行動の減少の効果、又役割を持つて生活を送ることで失われがちな自信を回復し自分らしい生活が送られるよう支援していきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設独自の理念を正面玄関に掲示している。見やすい文字で掲げている。明示工夫もなされている。	○ 玄関を入ると目の前にあり朝の出勤時に必ず視線が行く位置にあり日常の仕事の中で理解が今以上に深まっている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民との交流、ボランティア団体や学校、幼稚園、老人クラブなどとの交流に努めている。GHを良く知らない方たちが多く認知症を知っていたく良い機会と考えている。地域住民の方々にはよく理解されていないのと認知症に対する知識がまだまだ低いように思われる。	○ 地域の中の一員である事、又地域住民であると言う実感が持て、それが居心地のよさにつながり安心して長く落ち着いた生活につながるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症ケアに関わっているスタッフはよく理解できるよう情報の交換を行いケアプランの内容について良く検討し利用者のニーズに添ったケアプランであるかスタッフ間で共通理解をする為にも情報の共有がもてるよう努力している。	○ ケアプランを良く理解し実践、評価を繰り返し、実践の過程を理解しより良い方向にし、見直しの必要な項目について解決策又はサービスの内容をカンファレンスでよく話し合っていくことがまだまだスタッフに理解されてないため今後の課題である。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催で施設内の状況（職員入居者、待機者）など報告、意見を聞き反映している	○ 今後もいろいろな意見を頂サービスの向上を葉を図って行きたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月入居者状況の報告、待機者の状況など報告し問題があれば相談をしサービスの向上に努めている。	○ 地域の中に施設があるという観点から今後も行政との連携を密にしていきたい
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会で行ったりもしているがまだまだ理解されていないと感じている	○ 機械あるごとにスタッフには理解されるよう外部研修などをとって勉強して行きたい
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常にスタッフには力の暴力、言葉の暴力があることを話している。職員の意識の問題もある。	○ 地域のスタッフが大半を占め近所、親戚という関係もあるが今後も徹底して取り組んで生きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはもちろん十分説明しているも面会時など機会があるつど繰り返し説明している。	○	今後も今までと変わらず継続していく
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員も訪問されたりスタッフからの情報などでそのつどミーティング、全体会議で話し合っている。	○	今後も今までと変わらず継続していく
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	そのつど報告している。。金銭管理については、毎月小遣い帳をコピーし送付、また面会時、小遣い帳を確認していただきサインをしてもらっている。	○	今後も今までと変わらず継続していく
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に意見を聞くよう心がけサービスにつなげている。	○	忌憚のない意見を言っていただけるよう機会あるごとに働きかけている
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で本社の意向なども話しスタッフの意見を聞き、本社に報告している。	○	限られたスタッフの中でシフトがきついという意見が大半であると思うように改善されていないため今後も会社に
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務希望の取り入れ、勤務交代などは行っている。	○	できるだけスタッフの希望を受け入れ負担にならないように予定を組んではいるが限られた人数の中でおもいどりにいかないこともあるが不磨やストレスにならないよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ配慮しているがスタッフの能力もあり、シフトを調整することあるがサービスに影響はないと考えている。	○	できるだけなじみになったスタッフの移動は原則なくしたいが退職新規採用などもあり今後の課題と考えている。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの基礎知識から勉強会もつきに一度行っているが介護経験が乏しく理解には時間が必要と考えている。	○	認知症ケアの経験がないスタッフが多いのとなかなか思うように理解できていないため繰り返し勉強会な、外部研修など知識が養われるよう努力して行きたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏祭りや地域のイベントをとうしては交流することもあるが蜜な交流まではしていない。	○	開設後2年半を迎え今後は積極的に交流を持って行きたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事に追われじっくり話を聞く機会も思うように取れないが意見を聞くようにしている。また時には懇談会のような場をもうけている。	○	仕事に対する意欲の向上をもうためには仕事を離れた場での食事会の機会持ったり、スタッフの身体状況をチェックするシートを作り一定期間情報を集め、目配りしていく必要性をかんじている。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの心はつかみにくいのが現状、本人の心がけも必要かと悩むこともあるがそれぞれに前向きな気持ちが全体的にたりないとかんじている。	○	勉強する気持ちがない人地にいかには介護の仕事に関心を持っていただき介護の楽しみや、やりがいを持っていただけるかが今後の大きな課題であり質の向上に向け努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後安定して長く落ち着いて生活ができるようTelでの報告、また面会時にはんすきかいをつくっている。	○	入居時、一月後の状態夜間、日中の行動など報告を欠かさず今後もいっそう努力していく。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話し合い、他のサービスの選択肢はないか、など訪問して相談している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時の不安解消には家族の協力、他入居者の協力は欠かせないと考えており、声がけ、レク参加、誰かと一緒に行動するよう配慮している。	○	スタッフは笑顔を持ってよく声かけをしたり、他者との仲に入れるよう心がけゆっくりではあるが施設になじむよう努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にはできることをお願いし、できないところはさりげなく補い、本人が自立心とやるきが引き出せるようにしている。	○	ともすると介護側の観点で物事を進めそうになることもありゆっくり、ゆったり過ごしながら学ぶことも大切であると考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	落ちついて長く安定した生活を維持するためには入居後も家族とのかかわりが大切であり、面会の必要性、行事への参加などもお願いし協力していただいている		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後の生活の状況、身体の状態、など報告しながら家族の近況なども伝えるようにしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域へのイベントの参加、ボランティア等の受け入れなどを行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共通の特技を見出したり、出身地など、その時代の生活が共有できるよう働きかけて仲間づくりができるよう配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、死亡などいろいろなことがありTelで話したり地域であったりした時など声をかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんな生活を送りたいですかと聞いても何でもという家族や入居者が多い中で生きてきた過程を大切に、本人のできることを把握し強制することなく本人本位としている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな生活を送りたいですかと聞いても何でもという家族や入居者が多い中で生きてきた過程を大切に、本人ができることを把握し強制することなく本人本位としている。自宅で生活ができなくなった原因、経過の白は行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムの把握、ADLに合わせたレク、軽作業を行っている。スタッフともども楽しくおこなえるようにしている。	○ 一緒に行うことで客観的に観察し認知症への理解を深めるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアに対する相互理解は不可欠であると理解してはいるが実践されているかと問われると自信は持てない	○ ケアプランの勉強中でもありスタッフに思うように理解されていないのが実情、今後も最大の課題であると考えているためなお一層の努力目標と考えている。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の悪化、精神的な不安定さに関して、カンファレンスの必要性、情報交換、伝達の重要性を共通理解し認識することが大切であるが確実にできているとはいえない	○ ケアプランの勉強中でもありスタッフに思うように理解されていないのが実情、今後も最大の課題であると考えているためなお一層の努力目標と考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは各自常に持参している。気づきの記録はカードデックス、ファイルに記録している。	○	入居者一人ひとりに常に心を寄せることで気づきができることを繰り返しはなしている。誰もが同じ視点で見られるよう努力して行きたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の機会、家族とのふれあいの機会、健康管理など行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	不定期ではあるが民生委員やボランティアの受け入れをしている、町のイベントへの参加、避難訓練など行っている。	○	多彩なボランティアの訪問、町のイベントへの参加はもっと回数が必要と考えている。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを受け入れたいが思うようにできていない。	○	特に冬季は出かける機会も少なく身体機能の低下があることからデイサービス、デイケア、町の温泉を借りるなど機能低下への課題は大きな問題と考えている。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談に出向いたり、問題があれば協力体制はできている。	○	地域に開かれた施設を掲げているが、協議する場もない。できるならばそういう場があることを願っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況にあわせる事もあるが基本的には入居前のかかりつけ医から切り離さず定期的に受診している。協力病院では風邪など軽度の症状や健康診断などをお願いしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な受診はもとより、精神的な状態に応じて家族と相談し受診を行っている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員が24時間体制で行動ができるようにしている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、家族とともに治療計画、などを聞き面会の機会を頻回にもうけ、病院の地域連携室とも協議しながら対応している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、見取りについての考え方は入居時にまずかかりつけ医から切り離さず緊急時に受け入れていただくことができる。身体機能の低下に伴い重度になった場合は経口摂取ができなくなって状態が不安定になった時とかDrより施設の生活が困難であると診断された場合を除いて支援していくことを全員が周知している。	○	施設で最後を迎えるにあたっては往診できる医師がいらない、また訪問看護が近くにないことなど問題を抱えていえるため、重度化し緊急事態になるまでは施設で見て生きたいと考えている。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医の指示に従い、支えられることは精一杯家族とともに協力し一日でも長く生活が維持できるよう話し合いを行っている。	○	スタッフの観察能力が問題となるため、観察の仕方、判断力、情報伝達、を繰り返し教育していく必要性がる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	十分に話し合いはしているが見当識障害となるこ ともあり、トイレの場所、ホール、居室を繰り返し 説明し、ここが生活の場であることをスタッフ 全員が同じような対応ができるよう配慮してい る。	○	家族への近況報告をまめにし、家族にも急力が得 られるようにしていく。またスタッフ間の連携、 情報交換を密にし、対応がばらばらにならないよ うにしていく
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	ファイルは書棚に入れておき、居室に入る時は ノックや声をかけることを徹底している。また名 前を呼ぶ時はフルネームで呼ぶようスタッフには 繰り返し説明している。又トイレ介助時にはドア を確実に閉め、恥ずかしくならないよう指導して いる。	○	フルネームで呼ぶようにと十分理解していても名 前を呼ぶなどするスタッフもまだいるため徹底し て行きたい。排泄の介助、入浴の介助など裸にな ることへの羞恥心に関しては特に配慮できるよう に今後も指導していく。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	それぞれの能力にあった説明のしかた、をゆっく り時間をかけてせかせることがないよう、又介護 者本意とならないよう普段から話している。	○	介護者が決め付けるのではなく本人が自己決定で けるような声かけ、説明のしかたがあることを指 導していく
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	それぞれの能力にあった説明のしかた、をゆっく り時間をかけてせかせることがないよう、又介護 者本意とならないよう普段から話している。	○	介護者が決め付けるのではなく本人が自己決定で けるような声かけ、説明のしかたがあることを指 導していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	施設にも訪問しているが気に入らないという入居 者もおり近くの美容院に連れて行く。又整容や身 だしなみについても心配りができて来ている。。	○	特に外出時には季節に合った洋服、靴など自分で 選べないことも多いがさりげなく見ていたり声を かけて自分で選ぶことができるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	プレートを使ったり、土鍋を囲んだり、そうめん流しなどを行うと普段食が細い方でも喜んで参加し一生懸命食べている		そのほかに2つのユニットが一緒になってオードブル形式で昼食会を行うと非常に喜んでいる
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、タバコは禁止されているが特に要望はない。好みの飲み物や果物はできるだけ希望に沿うようにしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で排泄のリズムを把握し、トイレでの排泄を基本に考えている。オムツ使用者にはできるだけオムツが外れるよう援助している。+	○	できるだけオムツ使用者にはおむつを外しトイレでの排泄をうがしていく。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週2回の入浴を促し本人の希望を聞き午後であったり午前であったりする。	○	尿汚染、弁汚染などその時のjy協によってシャワー浴、足浴なども行っている。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝食後や昼食後の休息もあるが本人の希望にそっている。	○	休息の時間は決められたものではなく休みたい時に休むようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できること、苦手なことなど本人の状況に応じ、外出や家事のお手伝い、など臨機応変に応援している。	○	限られた人たちだけが行うのではなくみんなができるようにしていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おき忘れ、しまい忘れもあり被害的な問題もあり お金の管理は非常に難しく今は持たせていない。	○	買い物などの時には考えていくべきと思っている。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい時には戸外に出られるよう支援している。	○	配車の都合もあり、又冬の期間が長いこともあって外出の機会も思うようにできないことから春以降はできるだけドライブやスーパーへの買い物などへの機会を多く持って行きたい
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2～3時間ほどかけてドライブに行くことある。	○	さくらんぼ狩り、りんご狩り、あやめ祭りなどこれからの予定
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは遠くの家族にたびたびTELし直接お話ができるように配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも誰でも訪問できるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、建物に関しては鍵をかけないようにしているが夜間は試乗している。居室のデイ入り口にも鍵はない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていない		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	下肢筋力低下者が多く立ち上がり、歩き始め、乗時、歩行、など声がけ見守りを行っている。又食事時や水分飲用時にも同様の配慮をしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は戸棚にしまい消毒液は倉庫に保管している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりのADLの把握が大切かと考えている。服薬に関しても必ず名前の確認と服薬確認を行うために手渡しとしている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年1回、救急救命の訓練を行っている。マニュアルも作成している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所の確保と避難口などを取り決めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時やADLの低下に伴うリスクはそのつど家族にも説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化、何かしらの変化時には少しのことでも管理者に報告し指示を仰ぐことになっている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方を受けたときに説明書も必ず入っているのでファイルに閉じていつでも見られようにしている		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘する入居者がおおく見られ下剤を服薬させるのではなく果物、ヨーグルト、牛乳などが満遍なく取られるようにしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力できれいにできない人には介助しながら食後必ず歯磨きとイソジンにてうがいがいを励行している、		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の1日摂取量は1, 5000をめどにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作ったり毎日の掃除汚染物の消毒、台所、タオルなど付け置き消毒を行っている。又手拭はタオルを中止しペーパータオルにしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを少量ずつ購入し早めに使い切るようにしている。又容器類、調理器具は毎日キッチンハイターを使用し消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇を作り季節ごとの花が楽しめるようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのホールの飾りで楽しみが持てるようにしている。希望によってたたみの居室も2部屋、TVの前にも畳やソファ＝を置くなどしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには季節ごとの飾りを作り楽しみがもてるように、又TVの前には畳やソファ＝を置いて好きな場所でくつろげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居室は二部屋あり選べる。又居室もある程度の空間があり家族との面会は十分と考えている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日温度調節はこまめに行い入居者より今日の温度調節はどうでしたかと聞き記録している換気にも十分配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳の部屋以外は段差はないが手すりの位置、洗面所は改良の余地があると思っている、		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	希望によっては名前を掲示しているが小窓に写真を貼り付けたり、飾り物などで目印をつけている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールの吹き抜けを利用し季節感が感じられるような飾りを作っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)